

**EFEKTIVITAS PENGGUNAAN TEKNIK DUBBING FILM UNTUK
MENINGKATKAN KEMAMPUAN BERBICARA
(Penelitian Eksperimen Pada Siswa Kelas XII Bahasa SMAN 1 Nagreg
Tahun Ajaran 2016/2017)**

Sanda Nuryandi

1204617

ABSTRAK

Dalam mempelajari bahasa, khususnya bahasa Jepang, kemampuan berbicara merupakan salah satu aspek penting yang harus dikuasai oleh pembelajar. Salah satu fungsi bahasa adalah sebagai alat komunikasi. Dengan kemampuan berbicara yang baik, kita akan bisa berkomunikasi dengan baik pula. Penelitian ini mengkaji tentang efektivitas penggunaan teknik *dubbing* film dalam meningkatkan kemampuan berbicara bahasa Jepang. Tujuan dari penelitian ini adalah untuk mengetahui kemampuan berbicara siswa sebelum dan setelah diterapkannya teknik *dubbing* dalam pembelajaran dan untuk mengetahui tanggapan siswa terhadap penerapan teknik pembelajaran ini. Metode penelitian yang digunakan adalah *quasi experiment* dengan desain *one group pre-test post-test design*. Sampel penelitian ini adalah siswa kelas XII Bahasa SMAN 1 Nagreg sebanyak 34 orang. Berdasarkan hasil analisis data, sebelum diberi treatment, nilai mean rata-rata siswa adalah 39,41 sedangkan setelah diberi treatment menjadi 59,88. Artinya ada peningkatan sebesar 20,47. Nilai t_{hitung} yang didapat dari hasil perhitungan statistik adalah sebesar 10,44. Nilai t_{tabel} dengan db 33 adalah 2.04 pada taraf signifikansi 5%. Dengan demikian bisa diketahui bahwa $t_{hitung} > t_{tabel}$. Hal ini menunjukkan adanya peningkatan kemampuan berbicara siswa setelah diterapkannya teknik *dubbing*. Berdasarkan hasil angket, dapat diketahui bahwa sebagian besar siswa menganggap teknik pembelajaran ini cukup menarik, memotivasi, dan bisa meningkatkan kemampuan bahasa Jepang mereka. Namun, sebagian besar siswa masih merasa kesulitan dalam menggunakan teknik *dubbing* ini.

Kata kunci : Teknik *Dubbing*, Kemampuan berbicara bahasa Jepang.

**EFFECTIVENESS OF FILM DUBBING TECHNIQUE ON IMPROVING
STUDENT'S SPEAKING SKILL
(Experimental Research on 12th Graders of Language Class in SMAN 1
Nagreg)**

Sanda Nuryandi

1204617

ABSTRACT

When we learn a language, particularly Japanese, speaking skill is one of the most important aspects that must be mastered by the learners. Language has a function as a communication tool. When someone has a good speaking ability, they can communicate better. This research investigates the effectiveness of film dubbing technique on improving student's Japanese language speaking skill. The main purpose of this research is to understand the student's speaking skill before and after they had lessons by using film dubbing technique, and to know their response of this learning technique. The method used in this research is quasi experiment with one group pre-test post-test design. The samples are 34 students of 12th grade language class in SMAN 1 Nagreg. According to data analysis, the student's mean score before treatment is 39.41, and after they had treatment the score become 59.88. Based on this data, it means that there is an increase by 20.47 points. When calculated by statistic equation, the t_{score} value is 10.44. The t_{table} value of db 33 on significance standard 5% is 2.04 and that means that the $t_{score} > t_{table}$. It means that there is a significant increase on the student's speaking skill after they had lessons by using film dubbing technique. According to the questionnaire data, we can conclude that almost all of the students think that this learning technique is quite interesting, motivating, and it can increase their Japanese language skill. But, a considerable part of the students still feel difficult on using this learning technique.

Keywords : Film Dubbing Technique, Japanese Language Speaking Skill.

日本語の話能力を高めるためのダビングという教授実践手法の有効性

(ナグレグ第1高等学校の言語クラスの3年生における実験調査)

サンダ・ヌリヤンディ

1204617

要旨

言語を学習する際に、特に日本語、話能力は一つの重要な納得しなければならない様相である。言語は他人とコミュニケーション機能がある。誰かの話能力が高いなら、その人は他人と滑らかにコミュニケーションをすることができる。本研究では、学習者の日本語の会話能力を増加するために、ダビングという手法を使用した効果を調べる。本研究の主目的はダビングという手法を使用した授業前後の学習者の話能力を知るための事である。また、この手法に対する学生の反応を知るための事である。本研究で使用した研究方法は準実験であり、使用した研究デザインは *one group pre-test post-test design* である。対象者はナグレグ第一国立高等学校の34人の言語クラスの3年生に行った。データ分析の結果に基づけば、ダビングを使用する以前の実験クラスの平均点は39.41点であり、ダビングを使用した後に、59.88点になり、20.47点の増加がある。そして、この計算に基づき、*t*得点は10.44点である。Db 33の意義基準5%に*t*表は2.04点で、*t*得点は*t*表より高いである。この結果によると、ダビングを使用した授業後で学習者の話能力に対して、大した増加がある。アンケートのデータに基づき、大多数の学習者はこのダビング手法がおもしろいし、モチベーションを高めるし、それに日本語能力が向上する感じがあることが分かる。しかし、大多数の学習者は授業でこの手法を使用することが難しく感じる。

キーワード : ダビング手法、日本語の話能力

A. 初めに

人の言語能力は様々の納得した様相から見える。その様相の中で、書く、読む、聞く、と話す能力である。言語学の中に話能力は他人にコミュニケーションをとるための関係がある。百合子浅野 (Sudjianto の中で、2004 : 97) は「日本語学の最終の目的は学習者が日本語の口頭と文章語で相手にアイデアと意向をコミュニケーションをするのである」と述べている。話すということは s 人と人間で意思を伝え合う、いわゆるコミュニケーションであり、その形には一人対一人、一人対多数、多数対一人などがある (日本語教育辞典、2009:85)。

日本語の学習にも、話す能力は一つの重要な様子のものである。誰かの話能力が高いなら、相手と滑らかにコミュニケーションをすることができる。でも、インドネシア人は日本語で話すことが難し漢字がある。なぜなら、インドネシア語と日本語の語族は違いし、それに学校の生活で学生たちは友達と話す際に日本語をあまり使わない。

その問題を解決するために、教師は効果的なメディアと教え方を考えることが必要である。ナグレグ第一高等学校には話能力を中心する授業があまり使わない。そして、学生たちの話能力はまだ低いし、大多数の学習者は日本語で話す生活に対する難しく感じがある。

本研究ではダビングという教授実践手法で日本語の話能力を高めるために提案する。そのため、本研究の題名は「ナグレグ第一国立高等学校における日本語の話能力を高めるためのダビングという教授実践手法の有効性について」である。

B. 研究の問題

先の説明に基づき、本研究の問題は次のようである。

1. ダビングという教授実践手法を使用する前後、実験クラスの話能力はどうであろうか。
2. 学習者の話能力を向上させるために、ダビングという教授実践手法の有効性どうであろうか。
3. 日本語の授業でダビングという実践手法を使用に対し、学習者の反応と感想はどうであろうか。

C. 研究の目的

先の説明した研究問題に基づき、本研究の目的は次のようである。

1. ダビングという教授実践手法を使用する前後、実験クラスの話能力を知るための事である。
2. 学習者の話能力を向上させるために、ダビングという教授実践手法の有効性を知るための事である。
3. 日本語の授業でダビングという実践手法を使用に対し、学習者の反応と感想を知るための事である。

D. 研究方法

本研究では準実験調査方法で行われる。そして、この研究の使うデザインは *one group pre-test post-test design* である。本研究のサンプルはナグレグ第一高等学校の XII 言語クラスの学生の 34 人である。実験クラスの授業はダビングという教授実践手法を使用した。本研究では、ポーステストの以後、学習者はアンケート調査を配られた。

E. データの処理

本研究では収集したデータを操作するため、*statistic* 公式で使う。定量データは学習者の *pre-test* と *post-test* の得点であり、定性データは学習者に配られたアンケートの結果である。そのうえ、データを操作するために、様々な方法を使用した。これからその方法の処置を説明しようと思っていた。

- 1. 予備の表を作る。

表 1 予備の表

No	X	Y	D	D ²
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
.....				
Σ				
M				

- 2. X 変数と Y 変数の平均点を計算する公式。

$$Mx = \frac{\sum x}{N}$$

$$My = \frac{\sum y}{N}$$

(ステディ, 2011:231)

- 3. X 変数と Y 変数の gain 点を計算する公式。

$$Gain = post-test\ score - pre-test\ score$$

- 4. X 変数と Y 変数の mean gain を計算する公式。

$$Md = \frac{\sum d}{N}$$

(アリクント, 2006:350)

5. 二次偏差点を計算する 公式。

$$\sum x^2 d = \sum d^2 - \frac{(\sum d)^2}{N}$$

(アリクント, 2006:351)

6. t 得点を計算する公式。

$$t = \frac{Md}{\sqrt{\frac{\sum x^2 d}{N(N-1)}}}$$

(アリクント, 2006:350)

7. 自由度を計算する公式。

$$Db = N-1$$

そして、アンケート調査を分析するため、使用される公式は次のようである。

$$P = \frac{F}{N} \times 100\%$$

(アリクント, 2006 : 51)

F. 分析及び解釈

ダビングという教授実践手法を使用する前に、実験クラスはプリテストをした。その予備テストの結果から、学生たちの平均点は 39.41 が分かった。そして、四回の授業際に、実験クラスはダビングという教授実践手法の *treatment* で勉強していた。学習者が学んだ教材は「好きなもの」、「趣味」、と「分かること・出来ること」である。その際に、問題がある。しかし、時間通りにその問題は解決することができた。

ダビングという教授実践手法を使用した後、ポステストをした。ポステストのデータから見れば、実験クラスの平均点は 59.88 が分かった。その結果かに基づき、実験クラスの平均点は 20.47 が高めることが分かった。*Pretest* と *post-test* の得点から t 得点は 10.44 点 が分かる。意義基準 5% で 33 の自由度の t 表は 2.04 点ため、 t 得点は t 表より高いである。その結果、ダビングという教授実践手法は学習者の日本語能力を向上させることが認める。

最後に、ダビングという教授実践手法を使用した授業に対し、学習者の反応と感想を知るために、アンケート調査を配った。その調査に基づき、実験クラスの大多数の学習者はこのダビング手法がおもしろいし、モチベーションを高めるし、それに日本語能力が向上する感じがあることが分かった。しかし、大多数の学習者は授業でこの手法を使用することが難しく感じる。

G. 終わりに

データの分析の結果に基づき、本研究の結論は次のようになる。

1. *Pre-test* の結果に基づき、学習者の話能力の平均点は低いである。なぜなら、これまでの授業は話能力に中心されていない。大多数の学習はよく練習していたが、日本語で話すの感じがある。
2. *Post-test* の分析の結果に基づき、ダビングという教授実践手法を使用した後、実験クラスの平均点は *pre-test* の際より高めることが分かる。何故なら、ダビングという教授実践手法を使用した授業際に、学習者は主体的にクラスの前で話すし、そして自主的にシナリオを作ることができる。
3. *Statistic* で計算したデータの結果に基づき、 H_0 は拒絶され、 H_k はうけられた。つまり、ダビングという教授実践手法を使用した授業はより面白いがあり、有効性が検証された。
4. アンケート調査に基づき、大多数の学習者はこの教授実践手法に面白いし、日本語能力を向上させ、それにモチベーションを高めることができる。しかし、しかし、大多数の学習者は授業でこの手法を使用することが難しく感じる。

H. 今後の課題

本研究の今後の問題はまず、教師は授業を教える前に、ダビングの処置をきちんと分かることが重要である。そして、教師はシナリオを作る時間と発表時間を十分に分けることも重要である。

参考文献系

- Arikunto, S. (2010). *Prosedur Penelitian*. Jakarta: RINEKA CIPTA
- Ogawa, Oshio. (2009). *日本語教育辞典*. Tokyo: DAISHUKAN SHOTEN
- Sudjianto, & Dahidi, A. (2004). *Pengantar Linguistik Bahasa Jepang*. Jakarta: Kesaint Blanc.
- Sutedi, Dedi. (2011). *Penelitian Pendidikan Bahasa Jepang*. Bandung: HUMANIORA